

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、佐鳴台圏域） 第3回会議 議事録

開催日時	令和3年2月4日（木）10時から11時30分まで
参加者	委員：18人 事務局：1人 その他：10人（高齢者福祉課2人、障害保健福祉課1人、中区長寿保険課2人、地域包括支援センター佐鳴台3人、市社協2人）
場所	佐鳴台協働センター ホール
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 協議体会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>地域の実情を受け止め共有、今後の地域像について考える一助に</p> <p>①事例発表（5分程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐鳴台地区自治連より 横のつながりが希薄になっている。 コロナ禍でも住民全体で組織をまとめ、活性化に向けて動いている。 来年度は、みんなの健康に留意しながらサロン活動に力を入れていきたい。 県営住宅に暮らす住民からあいさつがうるさいと相談があった。 佐鳴台六丁目は一番小さな町。地域活動はほとんどない。 ・城北地区自治連より 近所のつながりがうすくなった。一人を好む方がいる。 人との交流が嫌い。地区もますます高齢化になっていく。 広沢地区 77歳以上 600人、敬老会出席者約 120人、シニアクラブ会員 20人。 ・佐鳴台地区民児協より 市より見守り依頼があった方々には、できる範囲でチラシやPRカードの配布。 一人暮らしの方が家の中で足を骨折、自分で救急車を呼んで病院に行った。 近所の人たちは気づかなかつた。担当民生委員には後日お知らせがあった。 独居、高齢者世帯等を見守ることの意味を改めて考えさせられたコロナ禍の出来事だった。 近所のおつきあいの希薄化を感じた。 ・城北北地区民児協より 訪問方法は、福祉表に登録してある方は訪問、郵便や新聞、洗濯物、インフラ関係などの動きをチェックしてくる。会えない方には、メッセージなど。 高齢の娘さんから一人暮らしの母親がこの頃調子が悪く上手く立てないと相談があった。 家族がいる場合は手法だけ教えて対応してもらおう。すべて民生委員がやる事ではない。

相談があれば関係機関につなげ、寄り添っていくことが民生委員の使命。

・城北南地区民児協より

ご近所づきあいはしたくない。関係の希薄化はやむを得ないと感じる。

友愛訪問で伺っても「あ、そう」だけで終わってしまう。

昔の井戸端会議のような濃密なつきあいはできなくなっている。

ご近所の方に「お変わりありませんか？」と聞くと「うるさいからほっといてくれないかな」との返答。なかなか難しい状況が続く。

・シニアクラブ西地区より

500人11クラブのお世話役をしている。

厳しく受け止めているところ、ポイントだけ抑えて感染防止で活動しているところもある。

街の中心部はドーナツ現状で活動が減りクラブ会員の低下がみられ、西地区は反対に活動が盛んになってきている。

佐鳴台地区高齢者は2683人でクラブ会員は150人。1丁目は445人で67人。

5・6丁目はもともとクラブがない。4丁目はなくなってしまった。

地域の方々が行事でもって関りができるところは介護支援が活発。

・地域包括支援センター佐鳴台より

佐鳴台地区で徘徊模擬訓練実施。

認知症施策としてオレンジシール、オレンジメールの推進。

認知症制度の周知や理解を深め、認知症高齢者が徘徊した場合どうしていくかをみんな考えていきたい。

認知症のことやサロン活動（通いの場）を次年度の重点目標にして活動。

*高齢者福祉課から

「認知症施策」について

認知症施策については近々の課題。R3～5年度プランを作成中。

軽度認知障害（物忘れ）の方も含めて、地域で認知症高齢者を見守る体制づくりが必要。

予防して介護にならないことを重点的に取り組んでいく。

②意見交換、質疑応答

委員より

1/17 広沢で資源回収実施。約200名参加。その中に浜松病院の院長がいて、コロナ禍の自粛で会話しない等から入院患者が増えたとお話があった。真面目な方が多い。

認知症について詳しく知りたい。

* 中区長寿保険課から

「認知症」について

認知症はいろんな種類がある。確定診断するには専門医で頭の写真を撮る。

脳の真ん中に海馬が2つあり、小さくなってくると記憶が無くなってくる。

物忘れや性格が変わるなどの症状。新しい記憶が入らず覚えられなくてトラブルになる。

ロコトレとの関連性は？

頭の血流が減ってくるので、体を動かすことで全身の血流が良くなり栄養も回る。

頭の衰えを防ぐ意味でロコトレは効果がある。

委員から

高齢化社会の下、地域で面倒見ていかないと日本が潰れてしまう。保険制度の改定やその延長で協議体の仕組みができた。地域ごとに助け合いの仕組みを作っていく。

自分たちでどういう地域像にするのか自分たちで考えて、それに向けて自分たちでやれることは何か探し出して、自分たちでどんどん進みましょうと国が言っている。

それが協議体の目的だと理解している。

地区社協の重点活動（2本立て）は、サロン活動と家事支援の運営が助け合いのポイント。

助け合いの仕組みの中に、住民が参加をしていく。助けてもらうだけでない。

みんなが参加型にならないと上手く進まないし盛り上がらない。

その仕組みをどうやって作っていくことではないかなと思う。

問題点を整理して進めていく体制づくりが必要。

4. 来年度計画について

年間4回開催予定 了承

5. 次回開催日程について 了承

令和3年6月3日（木）10:00～11:30 佐鳴台協働センター ホール

* 事前打合せ；5月12日（水）10:00～ 福祉交流センター3階団体事務室

（正副会長出席）

6. その他

7. 閉会 協議体副会長

今後の 見通し等	地域づくりへの関心度を高めるにはどうしたらいいのか。 地域の実情をしっかり掴み共有していく。＝我がごととして捉え考える。
-------------	---